

ICPC/EBLM プロジェクト統括チーム会議議事録

日時：2000年12月25日午後4～5時

場所：市ヶ谷ハウス

出席者：河合 忠、神辺真之、河野均也、中原一彦、渡邊清明

オブザーバ：EBD フォーラム事務局

〔報告事項〕

1. ICPC/EBLM プロジェクトを2000年4月に発足してから、西堀真弘博士(東京医科歯科大学医学部)が担当し、ホームページを開設した (<http://ebd.umin.ac.jp/srlm/>)。
2. 高感度 CRP 測定法の臨床的意義についての系統的再評価に対して研究補助金を交付した。竹村譲(防衛医科大学校)・石田博(川崎医科大学医学部)両氏のもとで、循環器疾患と新生児感染症における臨床的意義について検討が進行中である。
3. IFCC/EMD/C-SRLM は2000年7月、その活動範囲を広げるとともに名称を Committee on Evidence-Based Laboratory Medicine(C-EBLM)に変更した。
4. CASP(critical appraisal skills programme)日本代表の福岡敏雄博士(名古屋大学医学部救急医学)と意見交換をした。CASP の本部は英国にあり、日本支部でも医療のさまざまな分野での応用について講習会を開催している。今後、臨床検査医学への応用について意見を伺った。
5. 2000年度第8回 Cochrane Collaboration Colloquium(南アフリカ、ヨハネスブルグ)に ICPC/EBLM プロジェクトを代表して西堀真弘博士が出席し、本プロジェクトの活動状況について発表した。文部省科学研究費石田研究班を代表して石田、西堀両班員が出席し、IFCC/C-EBLM の W.Oosterhuis、R.A.Horvath の両委員と今後の協力体制の構築について協議した。
6. 中日韓医療情報学会(韓国、済州島)に西堀真弘博士が出席し、本プロジェクトの活動状況を発表し、併せて韓国の研究者と今後の連携について話し合いがもたれた。

〔審議事項〕

1. IFCC/C-EBLM に改組され、日本臨床検査医学会に新しく EBLM 委員会(委員長：神辺真之教授)が発足したことから、ICPC/C-SRLM を廃止し、ICPC/EBLM プロジェクトとする。
2. ICPC/EBLM プロジェクトは、以下の活動をするために、引き続き統括チーム、方法論チーム、選考チーム、統計チームを置いて活動する。〔新組織図を参照〕
 - a 日本臨床検査医学会の EBLM 委員会を支援する
 - b 国内の関連団体との連携を図る；EBD フォーラム、など

- c 海外交流を進める；IFCC/C-EBLM、Cochrane Collaboration/Methods Working Group、CASP など
 - d 研修会等の教育・研修活動を主催、支援する
 - e 適切な関連研究課題に対して研究補助金を交付する
 - f EBLMに関する情報収集、データベースの構築を図る
3. 学会等の各種会議、医学雑誌、等での発表や広報活動を進める。
4. 2001年6月16日(土)～17日(日)、一泊2日間の意見交換会を開催する。今回は、日本臨床検査医学会 EBLM 委員会・国際臨床病理センター共催とし、未公開とする。ICPC/EBLM プロジェクト統括チームメンバー、日本臨床検査医学会 EBLM 委員会メンバー、文部省科学研究費石田研究班班員の全員に参加を依頼する。必要経費の一部についてはICPCが予算化する。詳細については、今後、関係者の意見を参考にして、神辺真之委員長と河合 忠所長の間で協議する。

ICPC/EBLMプロジェクト新組織図

